



活動情報

1

1回目の練習が6/25(土)より始まり、2回目6/26(日)の練習の前半では、文化事業団・鈴木学芸員の解説で大垣城跡など「あおむ物語」ゆかりの地を見学しました。(当日の参加者30名)

練習：毎週土・日曜日。7/13からは水・金曜日も実施。

2

「子供の頃から慣れ親しんでいる大垣城ですが、地元のことほど意外と知らなかった。」という感想もあり、晴天で汗だくになりながらでしたが、参加者同士でのコミュニケーションも深めることができ、有意義な時間となりました。

3

これから配役が決定し、本格的に練習が開始となります。チケット発売もまもなくです！！

公演までのあゆみについては、文化事業団や劇団のHP等で公開しています。



<本公演情報>

- と き : 令和4年8月 27日(土)18:30開演(18:00開場)
28日(日)14:00開演(14:30開場) ※公演時間約100分(予定)
- ところ : 大垣市スイトピアセンター 文化ホール
- 料 金 : 【全自由席・日時指定】 一般:1,800円、25歳以下1,000円、高校生以下500円
- 発売日 : 7月8日(金)10:00～
- 販売場所 : 大垣市文化事業団ホームページ
大垣市スイトピアセンター(文化会館1階事務室)、大垣市民会館(1階事務室)

本件に関する
お問い合わせ

〒503-0911 岐阜県大垣市室本町5-51
(公財)大垣市文化事業団 事業課 事業係 係長:村瀬、鈴木 係:早崎
TEL 0584-82-2310 FAX 0584-82-2305
ホームページ <http://www.og-bunka.or.jp>



市民創作劇

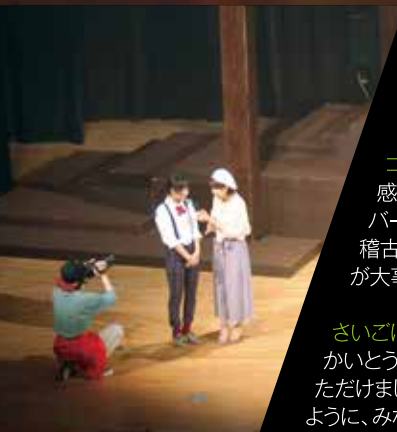
とき 8/27(土)
開演 18:30 / 開場 18:00

8/28(日)
開演 14:00 / 開場 13:30
※託児サービスは28日のみになります

ところ スイトピアセンター 文化ホール

料金 【自由席・日時指定】
[一般] 1,800円
[U25] 1,000円
[高校生以下] 500円

チケット 7/8(金)10:00~



今年、旗揚げ39周年を迎える「劇団芝居屋かいとうらんま」と、公募した市民キャスト・制作スタッフが共に、郷土大垣を題材にした舞台を創り、今夏公演を行います。現在の3代目座長・後藤 卓也さんにお伺いしました。

まず、「劇団芝居屋かいとうらんま」についてお伺いします。
「かいとうらんま」の由来を教えてください。

中国の故事「快刀乱麻を断つ」から、混迷した大垣の「芝居文化」を鮮やかにまとめるという意味で、当時の南宮大社の神職より命名していただきました。

近年の活動について教えてください。

コロナ禍においても、自主公演、小学校公演や、映像作品の制作など精力的に活動しています。今年は2年ぶりに東京公演も予定しています。

市民創作劇に制作協力していただくのは、平成30年度の「～芭蕉殿、事件でござる～100年目の招待状～」以来4年ぶりとなりますが、今年のテーマについて教えてください。
めまぐるしい現代社会において、人と人のつながりが希薄になってきていますので、みんなが力を合わせて困難に立ち向かい、迷いながらも成長し、1日1日を大切にしていきたいことをテーマとしています。またこの「大垣」という自分たちの街をもう一度見つめ直すきっかけになれば、と思います。

現在、稽古がはじまったところですが、劇団公演と違って市民キャストやスタッフとともに創り上げる楽しみは、どのようなところでしょうか。

私たちがこれまで培ってきたことを、より多くの人に楽しみながら体験してもらいたいと思っています。クオリティよりもチームワーク。だからこそ、稽古は緊張感を保ちつつ「楽しむ」ことを第一にしています。

コロナ禍での演劇公演は、大変だったと思いますが、コロナ前と後で何か変えたものなどは教えてください。
感染症対策はもちろんのこと、より一層、お客様に快適にご観劇いただく為にはどうしたらいいのか、またメンバーの体調管理などもそれまで以上に意識するようになりました。

稽古中も、当然マスク着用しますが表情も伝わりにくい。だからこそより相手を想い、チームとして助け合うことが大事だと感じています。

さいごに、今回の公演の見どころについて教えてください。

かいとうらんまと市民参加の人たちが、「芝居」という「文化」をお客様と共に楽しみます。幅広い年齢層が集まっていただけだったので、どなたでも楽しめる芝居になると思います。芝居は「観るもの」ではなく「体感するもの」と言われるように、みなさまも楽しんで頂きたいです！

「あかねとおあむ
この街にさよならを言う前に」

劇団芝居屋かいとうらんま

1983年、岐阜西濃地区の高校演劇部OBが中心となって結成。
初代座長は稲垣忠幸(現在劇団の顧問) 二代目座長は峰藤樹、1985年には三代目の後藤卓也(現在も)が襲名している。上演する芝居は、オリジナル脚本を基本として、シリアス、コメディ、時代物、子供向け、ミュージカル等、さまざまなジャンルに挑戦しつづけている。また、座付き作家でもある後藤の作品は、常に現代社会と結びつき、人間をテーマに描いている。昨今では、特に「NEO時代劇」と銘打った時代モノの作品が好評である。

<https://kaitouranma.net/official/>

画像：市民創作劇「芭蕉殿、事件でござる～100年目の招待状～」の様子

